

平成 2 1 年度 実施事業	事務事業名	ヘルスパイオニアタウン事業（水中運動教室受講者助成経費）
-------------------	-------	------------------------------

区分	番号	名 称
章	1	やさしさと共生するまち
節	2	市民一人ひとりが生涯を通じて健康に暮らせるまちをつくる
施策	2	保健予防活動の充実
小分類	1	成人及び老人保健の充実
主要な施策	2	健康教育・健康相談体制の充実
事務事業番号	003	事務事業コード 12212003 事業開始年度 平成 1 6 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	国民健康保険特別会計	予算書上の事務事業名	疾病予防経費（水中運動教室受講者助成）
------	------------	------------	---------------------

部 名	保健福祉部	グループ名	国保・医療給付 G
-----	-------	-------	-----------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

対 象	（何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのかを具体的に記載ください）
	市民プールで実施の水中運動教室に参加する登別市国民健康保険被保険者
手 段 （事業の内容・活動）	（目指す姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の内容を具体的に記載ください）
	市民プールで実施の水中運動教室に参加する被保険者に対し、受講料の半額（1,000円）を助成し、生活習慣病、整形疾患の予防改善を図る。
目 指 す 姿 （成果）	（事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載ください）
	水中運動教室への参加機会を拡大することにより、健康の保持・増進を図り、被保険者の健康管理に対するの自覚と認識を促す。
根 拠 法 令 等	（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載ください）
	登別市民プール水中運動教室参加助成実施要領

指標の推移

区 分		単 位	区 分	21年度 実 績	22年度 目 標	23年度 目 標	24年度 目 標	25年度 目 標
成果 指標	主な生活習慣病（高血圧・糖尿病・脂質異常症等）に係る1人当り医療費を全道平均以下にする。（5月レプトより：上段が道・下段が当市） 疾病分類121分類	円	目標値	2,758	2,758	2,758	2,758	2,758
			実績値	2,774				
	アンケート調査(2年に1回予定)にて、教室参加後に健康感が上昇したと回答した方の割合	割合	目標値		8割		8割	
			実績値					

事業費の推移

区 分			単位	21年度 決算	22年度 当初予算	23年度 見込	24年度 見込	25年度 見込	23～25年度 合計
事業 の 財 源 内 訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称 国民健康保険税	千円	1,072	1,540	1,540	1,540	1,540	4,620
	一般財源	名称	千円						0
合 計				1,072	1,540	1,540	1,540	1,540	4,620
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	79	83			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		79	83			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 本事業は、被保険者の水中運動教室受講料を半額助成するものであり、教室そのものを市が直接実施するわけではない。 したがって、被保険者の健康づくりのために、市(保険者)が受講料の一部を助成をしていくことは、妥当である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 20年度に教室参加者に対し、アンケート調査(2年に1回実施予定)を実施したところ、「体重減少した方」が2割、「体重維持している方」が5割で、「教室に参加後、健康になったと思うか」に対しては、約9割の方が「そう思う」と答えており、事業効果があると判断している。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのように向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 市が直接、水中運動教室を実施しているのではなく、教室への申込や助成金の申請等を含めて、文化・スポーツ振興財団に全面委託しており、既に事務の効率化を図っているため、これ以上事務事業の成果を向上させることは困難である。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト(予算や人工、所要時間)を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 本事業は、被保険者が市民プールで実施する水中運動教室の受講料を半額(1,000円)助成するもので、これ以上削減することは難しいと判断する。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	水中運動教室は、幅広い被保険者層の参加が可能であり、生活習慣病や整形疾患を予防・改善することが期待できるため、維持していく。
-----------	----------------------	--

総合的な評価(当該事務事業の方向性)

維持	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大(事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力的に推進する事務事業)
- 維持(現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業)
- 改善(現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業)
- 休止(暫定的に休止する事務事業)
- 終了(当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業)
- 廃止(当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業)